

俱知安駐屯地創立71周年記念行事

◆ One team ◆
和
をつむぎ地域とともに ◆

俱知安駐屯地は、令和8年6月21日、「陸上自衛隊俱知安駐屯地創立71周年記念行事」を挙行了した。俱知安駐屯地は昭和30年の開設より歴史を積み重ね今年で71年を迎えた。前日までの天気予報は雨であったが隊員皆の思いも通じ天候は回復、当日は無事晴天行事で開催を迎えた。開門時間前から、来場者が国道に列をなし、(駐屯地内で待機いた、たぎ渋滞を解消)、開門と共にたくさんの方々が入場、曹友会による子供広場、地方協力本部による広報ブース、警察消防コーナ―、売店コーナ―等各ブースを賑わせた。

当日会場では、全道サマークロスカン トリー実行委員会が主催する「第16回全道サマークロスカントリースキーin俱知安大会」も開催され、冬の間に特別な方法で保管されていたダンプロック約200台分の『本物の雪』による400mコースが設営された。この真夏のスキー大会は、第1回大会から記念行事にあわせて駐屯地内で同時開催されている。今回の大会では開始式直後にクロスカントリースキー経験のある現役隊員と俱知安町クロスカントリースキー界の著名人(スキー連盟会長、全国大会リレーの入賞の町議会議長、今年の3月退官された29連隊連覇時のバイアスロン選手)のレジェンドチームによるエキシビジョンマッチが開催された。レースは3名1組のリレー方式で行われ、レジェンドチームはクロスカントリー用スキーで滑走し、対する現役自衛隊チームは自衛隊装備のスキー3型で滑走するとともに、1走目

の隊員は鉄帽・弾帯・弾納・サスペンダー・2走目の隊員は鉄帽・戦闘白色皮・背囊約10キロ、3走目の隊員は鉄帽・防弾チョッキにアキオといわれる曳行ソリ約30キロの装備でレースに臨んだ。田中司令のスターターピストルの合図によりスタートし、レース序盤は両チーム均衡していたが、徐々にレジェンドチームが本領を発揮し見事勝利した。レジェンドチームの素晴らしい滑走が会場を沸かせる中、現役自衛隊チームも自ら課したタフな状況をものともせず最後まで奮闘し自衛隊の強靱性を十分にアピールして見事ゴール、会場からは盛大な拍手が送られエキシビジョンマッチは終了した。その後大会は全国（遠方は東京）から集まった約100名の選手たちにより年代・男女別のレースが行われ、白熱した展開の連続に、会場は大いに盛り上がりを見せた。

観閲式が始まり各部隊は、鬼気迫る表情・気迫溢れる行進で式典会場に入場、予定通り午前10時から記念式典が開始、当初式典に先立ち、今年4月に大分県日出生台演習場で訓練中に殉職された3名の隊員に対し、職務に殉じた崇高な使命感への敬意と哀悼の意を表し黙とうが捧げられた。その後執行者・田中司令は式辞において、「わが国者の平和と独立を守るため、尊い使命感のもと、日々服務の本旨を実践し、実直・献身、職務に邁進してくれている心豊かな俱知安駐屯地全ての隊員諸官に感謝します。ありがとうございます！そうした皆をお支えくださるご家族・ご友人・ご協力者の皆様方に深く御礼を申

し上げます。」と隊員のみならず、日々隊員たちを支えてくれている各関係者に感謝の意を伝えた。また、先輩方が築き上げられた71年の歴史を踏まえ「不易流行」について触れ、「我々にとつて不易とは自衛隊の使命、すなわち、わが国の平和と独立を守るため、事に臨んでは危険を顧みず、身をもって責務の完遂に努め、あらゆる危機の最後の砦という使命です。そして、陸上自衛隊倶知安駐屯地が、後志地域唯一の陸上自衛隊として、地域の皆様の安全・安心をお守りし、信頼される・信頼できる組織であり続けることです。」と述べた。そしてその礎を築いた今年で廃止30年目を迎える29普通科連隊を紹介し、しっかりとその使命を引き継ぎ果たしていくことを誓った。観閲行進の前には、「29連隊歌」が流れる中、29連隊を主力とした駐屯地OBによる行進が行われ、その雄姿が披露された。行進終了後OBである隊友会倶知安支部の油谷賢次支部長は「現役時代だけではなく、退官後も地域に貢献してきたことが認められたように思えた。現役の隊員たちの動きも素晴らしかった」と述べた。観閲行進では、各部隊が保有する各種車両による力強く整然とした行進が披露され、その威容を通じ部隊の強靱性を示した。式典終了後には、北部方面音楽隊、倶知安中学校吹奏楽部、倶知安高校吹奏楽局、くっちゃんブラスオーケストラ、北陽羊蹄太鼓少年団及びくっちゃん羊蹄太鼓保存会「鼓流」の6団体による素晴らしい演奏が披露され、会場を魅了した。

各種イベント会場も大盛況であり、装備品展示会場では、昨年初の試みで好評だった「グラップル」を装備した油圧シヨベル操作体験がベテラン施設隊員の補助のもと行われ、実際に重機を操作できる貴重な機会とあって、子供のみならず大人も列をなし大人気となった。また、体験試乗会場においても、高機動車、96式装輪装甲車及び10式雪上車を楽しみにする来場者で長蛇の列ができた。特に10式雪上車の体験試乗は、夏に日本でも唯一俱知安駐屯地のみで体験できる本物の雪上での走行となることから、来場者の関心を集め、多くの家族や自衛隊ファンで賑わった。

記念行事に訪れた来場者数は約2200人、天候も崩れることなく終了時間午後3時まで大盛況が続き、「俱知安駐屯地創立71周年記念行事」は無事終了した我々は、北部方面隊・俱知安駐屯地の一員としての誇り・やりがい・成長を感じ前例にとらわれず挑戦し続け、仲間と素直に意見を交わしながら心をつっとして「One Team」となつて地域とともに躍動してまいります。

著任部隊長



第314基地通信中隊長
3等陸尉 俱知安派遣隊長
盛田智毅
◆前任地
7後支連2整大
2戰直支中(北惠庭
出身地
北海道函館市



俱知安町電地(司令 田中2佐)は、4月6日(月)、春のおとずれとともに全国交通安全運動に併せて実施される。俱知安町交通安全協会主催の「セーフティコール」に参加した。

俱知安町内の道路は、雪が完全に解け速度が出しやすい環境であり、交通事故の未然防止の一助となるよう、交通安全啓発活動として、駐屯地から約30人の隊員がこの活動に参加した。

当日は総勢約150人の地域・関係機関の皆さまと連携し、町内の主要道路である『国道5号線沿い』に並んで、俱知安町交通安全旗をなびかせ、交通安全の呼びかけや啓発を行い、自動車及び自転車利用者の安全意識の向上を図った。

特に、2026年4月1日から改正道路交通法が施行され、自転車運転者への罰則が強化されたことを踏まえて自転車利用者に対して注意を払った。

以上の取り組みを通じ、地域全体で交通安全を守る意識がより一層高まったものと感じた。

駐屯地は、今後引き続き、継続的に交通安全活動に取り組み、司令要望事項「地域とともに躍動」をしつつ、安全・安心に暮らせるまちづくりに貢献していく。

俱知安駐屯地(司令 田中2佐)は、5月11日(月)、俱知安中央公園美化活動として石・ゴミ拾いに参加した。

中央公園は、俱知安駐屯地が支援する地域の冬季イベンント「雪トピアフィスティバル」の会場で、冬季以外は地域の子供たちの運動場や緊急時のヘリコプター離着陸場として利用されている。

美化活動は、この公園を使用する子供たちの怪我予防やヘリコプター離着陸時に発生するダウンウオッシュ(プロペラが揚力を得るために下方へ吹き下ろす、非常に強い下降気流)による危害予防を目的としたボランティア活動で、当日は、早朝6時30分頃から俱知安町の地域住民、駐屯地所属隊員らにより開始された。

当日は、天候に恵まれた晴天の下、参加者全員が積極的に活動し、公園内に落ちている石・ゴミが丁寧に除去され、安全で利用しやすい環境となり、隊員にとつて地域の皆様と交流を深める貴重な機会となった。

駐屯地は、「地域とともに躍動」を合言葉にこれからも地域の発展に貢献していく。



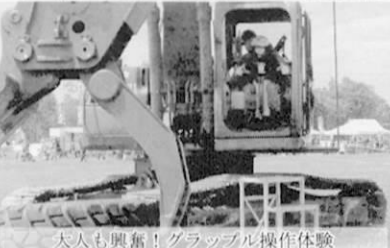
記念式典



第29連隊OBの皆様による行進



サマクロエキシビジョンマッチ



大人も興奮！ グラップル操作体験



夏の雪上車体験！



音樂隊演奏



ゆるキャラ行進



今年も人気! マッチョ看相



地本ブース笑顔の缶バッヂコーナー

!! 俱知安中央公園 美化運動 !!



『ストップ・ザ・交通事故』
「セーフティコール」に参加



俱知安駐屯地(司令 田中2佐)は、4月6日(月)、春のおとずれとともに全国交通安全運動に併せて実施される。俱知安町交通安全協会主催の「セーフティコール」に参加した。

俱知安町の道路は、雪が完全に解け速度が出しやすい環境であり、交通事故の未然防止の一助となるよう、交通安全啓発活動として、駐屯地から約30人の隊員がこの活動に参加した。

当日は総勢約150人の地域・関係機関の皆さまと連携し、町内の主要道路である国道5号線沿いに並んで、俱知安町マスコットである「じゃが太くん」が描かれていた黄色い交通安全旗をなびかせ、交通安全の呼びかけや啓発を行ない、自動車及び自転車利用者の安全意識の向上を図った。特に、2026年4月1日から改正道路交通法が施工される自転車運転者への罰則が強化されたことを踏まえて、自転車利用者に対して注意を払った。

以上の取り組みを通じ、地域全体で交通安全を守る意識がより一層高まったものと感じた。

駐屯地は、今後引き続き、継続的に交通安全活動に取り組み、司令要望事項「地域とともに躍動」をしつつ、安全・安心に暮らせるまちづくりに貢献していく。

俱知安駐屯地(司令 田中2佐)は、5月11日(月)、俱知安中央公園美化活動として石・ゴミ拾いに参加した。

中央公園は、俱知安駐屯地が支援する地域の冬季イベンスト「雪トピアフィスティバル」の会場で、冬季以外は地域の子供たちの運動場や緊急時のヘリコプター離着陸場として利用されている。

美化活動は、この公園を使用する子供たちの怪我予防やヘリコプター離着陸時に発生するダウンウォッシュ(プロペラが揚力を得るために下方へ吹き下ろす、非常に強い下降気流)による危害予防を目的としたボランティア活動で、当日は、早朝6時30分頃から俱知安町の地域住民、駐屯地所属隊員らにより開始された。

当日は、天候に恵まれた晴天の下、参加者全員が積極的に活動し、公園内に落ちている石・ゴミが丁寧に除去され、安全で利用しやすい環境となり、隊員にとつて地域の皆様と交流を深める貴重な機会となった。

駐屯地は、「地域とともに躍動」を合言葉にこれからも地域の発展に貢献していく。

